



## 令和8年度 学校経営計画

### 1 学校教育目標

勤労・自治・向上の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間の育成と社会の有為な形成者の育成を教育目標とする。教育方針は次のとおりである。

- (1) 健康な心身を育成し、情操豊かな人間性を養う。
- (2) 責任を重んじ、自主自律の精神と社会性を養う。
- (3) 思考力と判断力を培い、実行力を養う。

### 2 学校の特徴

- (1) 本校は、大正9年に富山県中新農業学校として開校し、幾多の変遷を経て平成9年に総合学科が設置され、今年度で総合学科として30年目となる。
- (2) 教育課程は2年次から生徒の進路や興味・関心に応じて6分野（人文国際、自然科学、グリーン、スポーツ科学、福祉健康、情報ビジネス）に分かれ、進路実現に向け少人数学習を展開している。
- (3) 進路先は例年、就職35%～40%程度、専門学校40%～45%程度、短大・四年制大学20%～25%程度の割合で構成される。
- (4) 生徒会執行部に所属する生徒は40名前後と多い。地域ボランティアに参加する生徒数は昨年度延べ180名おり、外部の行事に積極的に参加している。
- (5) 特色ある部活動として、ボクシング、空手道、ダンス、ウェイトリフティング、弓道、グリーンなどがあり、全国大会で活躍することを目標に活発に活動している。

### 3 学校の現状と課題

#### (1) 現状

- ① 基本的な生活習慣が確立されるよう生徒指導は全職員で取り組んでいる。学校の雰囲気は全体的に落ち着いているものの、粘り強い指導が必要な生徒もいる。
- ② 学校生活の目標が見つからず卒業後の進路がイメージできない生徒がいる。キャリア教育の一環として、上市町や上市町にある事業所と連携し、「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」等に取り組んでいる。
- ③ 地域と連携し多岐にわたる団体との活動やボランティアなど、さまざまな活動を通じて社会貢献活動に参加している。
- ④ デジタル教科書などを活用し、生徒が理解しやすく興味をもてる授業に取り組んでいる。生徒がタブレットPCを用いて主体的に学習に取り組む方法について、互見授業等の教員研修を実施している。

#### (2) 課題

- ① 基本的な生活習慣の確立には家庭の協力が不可欠で、学校と保護者が連携し規範意識が高まるような取り組みが必要である。
- ② 生徒の職業観を育成するために、生徒が主体となって社会にチャレンジできる機会を作っていく必要がある。
- ③ 学校行事や部活動、ボランティア活動、課題研究等を通じて、物事に進んで取り組む力（主体性）や現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）、コミュニケーション能力を向上させていく必要がある。
- ④ 効果的な進路指導を行うために、教員の進学や就職に関する知識を高める必要がある。また、基礎学力を向上させるには生徒の理解度の把握と対策が必要であり、基礎学力テストなどに関する指導者の分析力を高め、面接や教科指導を通して生徒へ還元していく必要がある。

#### 4 学校教育計画

項 目		目 標・方 針 及 び 計 画	
1	学習活動 <b>重点1</b>	目標	<p>①一人ひとりが基礎学力を身に付け、自分の進路や適性に応じて幅広い選択科目の中から、自分で科目を選択し学べる教育課程を編成する。</p> <p>②社会と連携・協働し、新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」を実現する。</p> <p>③教員が生徒の実態を踏まえ、授業に学び直しを組み入れ、<b>基礎学力の確実な定着を図る</b>とともに生徒が高等学校段階の学習に円滑に移行できるようにする。</p> <p>④総合的な探究の時間で、地域・企業の課題をテーマとした起業学習等の探究活動を通して、問題解決能力を育成する。</p> <p>⑤ICT機器を使用し確かな学力を養い、学習の興味・関心を高める。</p>
		計画	<p>①以下の2つの観点で教育課程を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力や適性、進路希望等を把握し、実態に即しているか。</li> <li>・総合選択科目において、系列の特徴を生かしているか。自由選択科目において、生徒が希望通りに選択できるか。</li> </ul> <p>科目選択説明会や担任との面談、決定までの日程など、生徒が適切に科目を選択できるような、より良い仕組みを検討する。</p> <p>②生徒の実態を踏まえつつ、新しい時代に求められる資質・能力や、社会との連携・協働について検討し、本校の魅力を高める。</p> <p>③生徒が達成感を感じながら「学び直し」が行えるよう、教科において年間指導計画に盛り込み、基礎力診断テストを全学年で実施する。その結果をもとに義務教育範囲の知識定着状況を確認したり、互見授業を行ったりすることで<b>授業の改善</b>につなげる。また、課題の提示方法を工夫し、生徒が手帳を活用して見直しをもって学習に取り組めるようにしたり、個に応じた学習方法や内容改善を行ったりする。</p> <p>④2年次には講師を招聘し、地域・企業課題の改善・解決法について取り組ませる。その準備として1年次に「人間関係スキル」学習や「地域を知る」体験学習、起業に関する学習（講演会）を進める。</p> <p>⑤ICT機器を活用し生徒が「主体的に学べる」授業を模索し、パソコン・タブレット端末を使った双方向型授業やWEB授業に関する研修を行う。</p>
2	学校生活 <b>重点2</b>	目標	<p>①<b>基本的な生活習慣の確立</b>を図る。</p> <p>②<b>社会に必要な礼節を身に付け、思いやりをもって行動できる生徒を育成</b>し、地域社会に貢献する活動を支援する。</p> <p>③心身の健康に関する意識の向上を図る。</p> <p>④環境衛生を良好に保つ取組を行う。</p> <p>⑤日々の生活の中で、自己も他者も尊重する心を養う。</p>
		計画	<p>①遅刻防止指導、問題行動の未然防止・早期対応、玄関前指導、校外・校内巡視</p> <p>②挨拶、身だしなみ、公共マナー指導・携帯・スマートフォンの使用方法に関する指導や講話（交通安全、スマートフォン、制服着こなし、薬物乱用防止等）の実施</p> <p>③生徒の健康状態の確認と学校医と連携した保健管理を図る。面接週間などを充実させることで、生徒理解及び悩みを抱える生徒の早期発見につなげる。また、生徒の変化に注意し、援助が必要な場合は、学年・保護者との連携を密にし、保健厚生部やスクールカウンセラーとの面談を実施する。随時、ケース会議を設け、個別に支援を必要とする生徒の共通理解を図る。また教職員の教育相談に対する意識及び技術向上のため研修会を設ける。</p> <p>④清掃担当場所の共通理解を図り、清掃用具の点検、美化週間の計画を行う。さわやか委員会が実施するさわやか運動、クリーン活動を支援する。</p> <p>⑤挨拶、服装、時間厳守、清掃といった規範意識と思いやりが、自他の尊重に結びついているということに気づけるよう指導する。相談室だよりの中で、人との関わり方について紹介する。</p>

3	進路支援 重点3	目標	<p>①系統的なキャリア教育により、<u>自ら進路を選択・決定する力を育成する。</u></p> <p>②組織的な個別指導体制を確立し、<u>多様化する入試・選考形態に対応する。</u></p> <p>③<u>保護者との連携を図り</u>、進路決定満足度を向上させる。</p> <p>(昨年度)</p> <p>①生徒の主体的な進路の実現を支援する。</p> <p>②キャリア教育を推進し、適切な進路選択ができる力を養う。</p> <p>③保護者との連携等支援体制を確立する。</p>
		計画	<p>①「職業を知る会」や「職場体験」を連動させ、早期の職業間育成を図る。</p> <p>②各学年で決定目標を段階的に設定し、系統的な進路選択プロセスを確立する。</p> <p>③総合的な探究の時間で自己を見つめ、言葉で表現する力を育成する。</p> <p>④インターンシップ・職場見学等の進路的な行事への積極的な参加を促す。</p> <p>⑤1年時から面接指導の充実を図り、保護者懇談会などを通じて進路決定に向けての協力体制を整え、第1志望の実現を支援する。</p> <p>(昨年度)</p> <p>①総合的な探究の時間で小論文・作文力を育成する。きめ細やかな面接指導を行って目標を具体化させ、主体的及び能動的に取り組む意欲を高める。</p> <p>②インターンシップ・職場見学等進路行事への参加をすすめる。県外進路研修、インターンシップ、オープンキャンパス等への参加を通して進路選択の視野を広げる。</p> <p>③各学年、進路希望に応じた面接指導の充実を図り、保護者会などを通じて協力体制を整える。奨学金制度について保護者を含め1年次から説明を行う。</p>
4	特別活動 重点4	目標	<p>①行事や部活動の目的を理解させ、各自の役割を遂行する態度や人間関係を健全に育成する。</p> <p>②<u>放課後活動、課外活動に積極的に参加</u>する機会を作り、自己達成感を育む。</p> <p>③読書活動を通して、幅広い知識と教養を身に付けさせ、豊かな情操を培わせる。</p>
		計画	<p>①各種行事への主体的な取り組みを支援する。(体育大会・学園祭等)</p> <p>②校外活動(ボランティア活動、地域交流等)の参加数を増やす。<u>部活動への積極的な取り組み</u>を促す。</p> <p>③「朝活動」に取り組む意識を向上させ、読書活動の定着につなげる。図書館の環境を改善し、資料の利用の活発化を図る。さまざまな広報活動や教養講座・秋の読書会の運営、校外図書選定等、図書委員の自主的な活動を支援する。</p>
5	地域との連携 重点5	目標	<p>①学校と地域の連携・交流をさらに深める。</p> <p>②学校と家庭の連携を密にし、PTA活動の活性化を図る。</p> <p>③<u>外部への情報発信の充実</u>を目指し、迅速で正確な情報伝達に努める。</p>
		計画	<p>①地域の方に学校教育活動への参加を促すとともに、生徒や職員が地域の行事・ボランティア活動に積極的に参加する。行政や企業等が集まるハッピー上市会とも連携する。</p> <p>②PTA行事や研修内容を充実させるとともに、アンケート実施や連絡・案内等を工夫することにより、会員相互の連携を一層密にし、PTA活動や学校行事への参加を促す。</p> <p>③あんしんメールや、本校のホームページ、インスタグラムを活用し、効果的な情報発信に努める。</p>

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 上市高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の定着に向けた教科指導等の改善	
現 状	<p>生徒の実態をふまえ、これまでの取組を引き継ぎ、授業の中で「学び直し」を実施している。また、全学年で基礎力診断テストを実施したことで、以下の結果を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び直しが大事だという意識をもって取り組んだ生徒は64.5%で、意欲的に取り組んだのは84.5%だった。</li> <li>・基礎力診断テストにおいては、D3生徒の割合は、1年生で45.8%から45.3%、2年生で55.7%から48.9%と減少している。しかし、進級前から比較すると、約18%後退する結果もみられ、長期休業明けに成績の低下がみられた。長期休業中に学習習慣がないことが原因と考えられる。</li> </ul>	
達成目標	①「学び直し」に対する意識の向上	②授業改善の方策
	学び直しに「やりがい」や充実感を感じる生徒の割合を70%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で指定した授業の年間指導計画に「学び直し」を明確に位置づける。</li> <li>・互見授業を活用し、他の先生の授業の工夫を知る。互見授業の参加率 60%以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び直し」の内容や進度についてアンケートを実施し、生徒に「学び直し」の意義を意識させる。</li> <li>・授業中に単元テスト等を実施し、生徒が分かる喜びやできる喜びを段階的に感じられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び直し」を行う講座の年間指導計画に、義務教育範囲の学習内容と実施時期を設定し、提出してもらう。</li> <li>・互見授業を通し、他の先生の授業の工夫を知る。また、自らの授業の指導内容や方法を工夫する。</li> </ul>

令和8年度 上市高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	①基本的な生活習慣の確立 ②学校生活および社会生活への適応	
現 状	①「基本的な生活習慣の自己管理」「身だしなみを整える」「公共のマナーを守る」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ②通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手な生徒や制服を着崩している生徒が見られる。 ③SNSに起因した人間関係トラブルが増加傾向にある。意識啓発に努めるとともに、適切な指導を早期に行っていく必要がある。	
達成目標	①②年間の遅刻生徒回数の減少に向けて、生徒の意識改善を促す指導の充実	③携帯電話の使用ルールなど違反者（ルール違反・ネットパトロールによる指導）の指導件数の減少
	①②前年比10%の減少	③前年比10%の減少
方 策	①②遅刻回数が多い生徒には、5分前に着席完了できるように生徒の自己管理と意識改善を促す。毎朝、上市駅、玄関前指導、朝活動を通じて挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとる。さらに、進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせ、生徒主体の指導体制を工夫し、生徒の内面的な成長を促す。	③生徒理解と家庭との連携に努めている。教育相談の充実や教職員間の共通理解と連携強化がさらに必要である。生徒がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐため、生徒・保護者の意識の改善を図る。

令和8年度 上市高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援		
重点課題	キャリア教育を系統化することによって生徒が主体的に進路を選択する力を育成し、多様な入試形態に対応した進路指導を行うこと。		
現 状	<p>①進路実現には早期の目標設定が必要だが、決めきれずに3年次を迎える生徒が多い。</p> <p>②校内ガイダンス等できっかけ作りを図るが、姿勢が受動的で深い学びへと発展しない。</p> <p>③進路学習が単発の行事にとどまっており、3年間を通じた系統的な学びになっていない。</p> <p>④自己理解や職業理解が不足しており、オープンキャンパス等への参加が主体性に欠ける。</p> <p>⑤年内入試（推薦・総合型）が主流となっており、志望理由書の作成指導や面接指導など、各生徒の志望に応じた個別の支援がますます必要となっている。</p>		
達成目標	<p>1 学年</p> <p>県内進路研修や職場体験を通じ、社会の仕組みと自己の適性を結びつけて考える。</p> <p>年度末の進学・就職の方向性決定率 80%以上</p>	<p>2 学年</p> <p>県外進路研修やインターンシップを系統的に活用し、自らの意志で具体的に志望先を考える。</p> <p>具体的な第一志望（校名・社名）決定率 80%以上</p>	<p>3 学年</p> <p>多様な選考形態に応じて、個別指導を行い、進学・就職それぞれの目標達成に向けて学習の支援をする。</p> <p>第一志望合格・内定率 80%以上、進路決定満足度 90%以上</p>
方 策	<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上市高校キャリア教育プログラム「職業を知る会」と、実際の現場を見学する「職場体験」をセットで実施し、早い段階から働くことへの意識を高め、職業観を育成していく。</li> <li>・地域の企業や学校を実際に見て回る「県内進路研修」を有効に活用して、地元の魅力を再発見し、進学・就職の大きな方向性を年度末までに定める。</li> </ul> <p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年時の体験から、「インターンシップ」や「県外進路研修」へと学びを系統的につなげ、目的意識を持って主体的に参加できるようにサポートする。</li> <li>・オープンキャンパスや各種施設見学などの各自の進路に応じた体験的な学習に参加するように促し、実際の雰囲気を知ることで個に応じた進路を選択できるように支援する。</li> </ul> <p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北陸の大学および医療系の学校の入試動向や多様化する選考方式の情報を生徒・保護者へ提供し、一人ひとりの志望に応じた個別添削や面接指導を全職員で行う。</li> <li>・好調な求人状況を維持するために、職員による企業訪問を継続して行い、採用情報を的確につかみ、生徒・保護者へ適切に情報を提供する。</li> <li>・進学・就職それぞれの試験まで強い意志を持って学習や自己管理を継続させ、全員の進路決定するまで、学年と連携して粘り強く指導する。</li> </ul>		

令和8年度 上市高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
	ボランティア活動、異年齢交流や部活動を通しての学校生活の充実	
現 状	<p>①校内外の行事に対して生徒会執行部は活発だが、一般生徒の意識はそれほど高くない。本校で把握しているボランティア活動に参加した生徒は延べ人数181名であった。また、希望しても無断で欠席するなど活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。</p> <p>②令和7年度の部活動加入割合は37.5%であった。4月当初の部活動加入割合は54.1%（全体）であり、1学年は66.2%である。</p> <p>③令和5年度より新入生の部活動を希望制とすることで、意欲的な部活動を行いやすい環境を整えた。しかし、それでも部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られた。継続して部活動を続けている生徒は全体の60%程度である。また、全学年平均75%程度の生徒が、やりがいを感じて最後まで継続して部活動に取り組みたいと答えている。</p>	
達成目標	①ボランティア等の校外活動の参加数 延べ人数 185名以上	②部活動の加入割合60%以上 ③部活動にやりがいを感じ最後まで継続したい生徒の割合80%以上（12月にアンケート実施）
方 策	①生徒会及び各種委員会と連携を図りながら、活動の輪をひろげる。また、地域交流や校内外でのボランティア活動、クリーン活動、家庭クラブ活動に対する広報活動を促進し、主体的に参加することへの意欲を高める。	②全校生徒に向け活動状況等を放送で伝え、活動意欲の向上を図り部活動の活性化に繋げる。 ③新入生の部活動参加を希望制とすることで意欲のある者達の活動を目指す。部活動の必要性や魅力を理解させ、体力や技術、意識の向上とともに人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。また、部長会議を前期後期各2回以上実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。

令和8年度 上市高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	地域との連携	
重点課題	外部への情報発信の充実	
現 状	<p>①公式Instagram、HPを併用して学校の様子を発信している。（昨年度は週平均1.8回）</p> <p>②あんしんメールを活用し、保護者に対して各種案内を行っている。</p> <p>③総合学科の特性を始めとする本校の魅力について、地域や各中学校への理解をより進める必要がある。</p>	
達成目標	①生徒や教職員による公式Instagramの投稿を定期的に行い、閲覧の機会を増やす。 投稿回数の平均 毎週1回 生徒主導による記事投稿回数を昨年より増やす。	②あんしんメールを活用し、保護者への情報提供の機会を増やす。 学年通信等の案内 毎月1回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒（生徒会）主導による記事の投稿を推進する。</li> <li>・保護者会や学校説明会、地域の行事やボランティア活動においてInstagramのPRを行う。</li> </ul>	